

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【有田振興局】有田地方農業士協議会と有田地方4Hクラブ連絡協議会が合同研修会を開催
～灌水チューブの取り扱いを説明～

令和7年8月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 令和7年度農家経営研修会を開催	
II 那賀振興局	2
1. 桃山町生活研究グループが食品と栄養のミニ移動教室を開催	
2. 紀の川市4Hクラブがオンライン研修会を開催	
III 伊都振興局	3
1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～農業技術講習会（果樹・野菜コース）を開催～	
2. 新規就農者研修会（農作業安全講習）を実施	
IV 有田振興局	4-5
1. 有田地方農業士協議会と有田地方4Hクラブ連絡協議会が合同研修会 を開催	
2. 有田農業技術者会でカメムシピーティング調査を実施	
3. かんきつ栽培におけるドローン研修会を開催	
V 日高振興局	6-7
1. 日高地方農業士会女性部会先進地研修会 in 大阪・関西万博	
2. 令和7年度由良町農業士会第2回夏季研修会を開催	
3. ニューファーマーズ激励会・スポーツ大会・交流会を開催	
VI 西牟婁振興局	8
1. トルコギキョウの低濃度アルコールを用いた土壌還元消毒を実施	
2. 西牟婁4Hクラブ連絡協議会が扇ヶ浜にて梅干し・うめラッシーPR イベントを共催	
VII 東牟婁振興局	9
1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】 ～高設栽培におけるクロルピクリン錠剤による土壌消毒説明会を実施～	
2. 稲刈り体験を開催	
VIII 農林大学校就農支援センター	10
1. 令和7年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第2班)開講	

I 海草振興局

1. 令和7年度農家経営研修会を開催

8月25日、JAわかやま東部営農センター会議室にて、農業士会、生活研究グループ連絡協議会、青年農業経営者協議会、4Hクラブ連絡協議会で構成する和海地方農業生活連絡協議会（会長：南方一誠氏）による令和7年度農家経営研修会が開催された。研修会では、JAわかやま平営農部長より「合併に伴うJAの自己改革とこれからの農業」、和歌山県事業・引継ぎ支援センター川端サブマネージャーより「農業における経営継承のコツ」と題した講演と農業水産振興課今井主任より「知って得する農業支援について」、木村技師より「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策について」の情報提供があり、31名の会員が研修を行った。参加者からは、「経営継承の時期なので大変参考になった」や「農業関係の補助金の活用方法を学べたのでよかった」といった意見があった。



熱心に聞き入る参加者

Ⅱ 那賀振興局

1. 桃山町生活研究グループが食品と栄養のミニ移動教室を開催

8月27日、粉河ふるさとセンターにおいて、桃山町生活研究グループ（会長：日浦茂美氏）が「食品と栄養のミニ移動教室」（一般社団法人栄養改善普及会事業）を実施し、会員20名が参加した。

この講習会は、社会情勢の変化にともない食事作りの時間が減少する中、家庭食の質を落とすことのないよう、加工食品を上手に利用し、簡単で楽しくおいしい食事作りを通して食品と栄養の知識を学ぶことを目的に開催された。水で混ぜるだけで簡単にサクッと揚がる天ぷら粉と特別な材料・道具が不要なクッキーミックスを使用し、夏野菜とイワシの天ぷら、紅茶クッキー、梅しそご飯を作った。出来上がった料理について意見交換を行い、参加者からは「簡単にカラッと天ぷらが揚げられるので、家でも使用してみたい」、「手軽に早くクッキーができ、洗い物も少なくて済むのがよい」等の意見があった。



調理実習



完成した料理

2. 紀の川市4Hクラブがオンライン研修会を開催

8月28日、紀の川市4Hクラブ（会長：木村竜二氏）はオンライン研修会を開催し、那賀いちご若手コミュニティのメンバーにも声を掛け、併せて13名が参加した。

講師に株式会社京都農販の齋藤 毅氏を招き、「バイオスティミュラント資材を使用する前にしておきたいこと」をテーマに話を伺った。

「みどりの食料システム戦略」においても持続可能な食料生産を可能にするとして注目が集まる資材「バイオスティミュラント」、その使用の前に知っておきたい基礎知識について、土壌における植物寄生菌の影響と植物の耐性の増強、栄養素の過剰対策などの講話を聞き、活発な質疑が行われた。



オンライン研修会の様子

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

～農業技術講習会（果樹・野菜コース）を開催～

農業水産振興課では、農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的として、8月18日に野菜コース、8月26日に果樹コースの農業技術講習会を伊都振興局で開催し、合計9名が受講した。

野菜コースでは、浅井普及指導員から主に秋や冬に収穫できる野菜の特徴や管理作業、主要病害虫防除等について、果樹コースでは、津田普及指導員から果実（かき）の着色に関する条件や、「樹上脱渋」の利点や方法等について説明した。

講義終了後、野菜コースでは、セルトレイへのキャベツの播種を培土の詰め方やかん水、播種、覆土等について実演を交えながら説明し、受講者も一連の作業を体験した。また、果樹コースでは、九度山町のかき園で固形アルコールを用いた樹上脱渋について実演を交えながらポイントを説明し、受講者も樹上脱渋の袋掛けを体験した。野菜コース受講者からは、播種後の管理方法や収穫時期についての質問、果樹コース受講者からは「樹上脱渋を少しだけ家のかきでも試してみたい」との感想があった。



播種体験の様子



現地研修会の様子

2. 新規就農者研修会（農作業安全講習）を実施

8月19日、農業水産振興課では、新規就農者及びJAトレーニングファーム受講生を対象に農作業安全講習会を開催し、5名の受講者が参加した。

はじめに当課の山口技師から、全国での農作業事故の件数や当たり前になっている作業から事故に繋がる危険性、事故が起こる原因について説明を行った。次に、VR機器を用いて伊都地方での使用が多い刈払機やスピードスプレーヤーなどの機械における事故事例を体験し、事故防止のための対策方法について解説した。続いて熱中症対策に関する注意喚起を行った後、令和6年4月1日から義務化された労働者への安全教育について周知した。

受講者からは、「没入感があり、理解しやすい」や「おざなりになりがちな作業から気を付けていきたい」という声があった。



VR映像による農作業事故体験

IV 有田振興局

1. 有田地方農業士協議会と有田地方4Hクラブ連絡協議会が合同研修会を開催

8月6日、有田市内で農業士と4Hクラブ員が合同で研修会を開催し、関係者を含めた37名が参加した。園地研修では総田圭氏から「点滴灌水によるみかんの栽培管理」として、点滴灌水の利点、灌水チューブの取り扱い方、作業効率を上げるための工夫などについて説明があり、参加者と効果的な敷設方法等について意見交換を行った。

また、岩崎まさし氏から「～10年後、20年後に向けた取り組み。～知ってもらう、応援してもらえ活動。」と題して、マルシェへの出店、直販やSNSの活用などの販路開拓の取り組みについて講演があった。最後に、早和果樹園生産部課長の岩倉舞子氏から「みかん栽培におけるアグリノートの活用事例」と題して、営農支援アプリ「アグリノート」を活用した作業進捗・労務・経費管理や社員教育について講演があり、参加者からは社員のモチベーション維持や技術指導等に関する質問があった。



点滴灌水の導入 総田氏 販路開拓の取り組み 岩崎氏 アグリノートの活用 岩倉氏

2. 有田農業技術者会でカメムシビーティング調査を実施

8月27日、有田農業技術者会（会長：大嶋幹生氏、JAわかやま営農指導員）の会員8名でカメムシビーティング調査を実施した。

有田農業技術者会は、JAわかやまありだ地域本部、JAわかやま営農部、NOSA Iわかやま中部支所、有田川土地改良区、有田中央高校、近畿大学附属農場湯浅農場、県果樹試験場、有田振興局農業水産振興課の技術者で構成され、有田地方の農業の発展・振興を目的に活動している。

調査は温州みかん等の果実を加害するカメムシ類3種を対象に、広川町と有田川町のスギ・ヒノキの山林15か所で実施した。捕獲したカメムシの数、餌になるスギ・ヒノキの球果の数から今後の樹園地への飛来量を予想した。

カメムシ捕獲数は1匹で、秋以降のカメムシの発生が少なかった昨年の7匹より少なく、球果の数も10地点で「少」と昨年同様に少なかったため、カメムシが大量発生する可能性は低いと考えられた。



捕虫網によるビーティング調査

3. かんきつ栽培におけるドローン研修会を開催

8月28日、農業水産振興課は、果樹試験場にて「かんきつ栽培におけるドローン研修会～所有か委託か？あなたの経営に合う選択は？～」と題して研修会を開催し、生産者や関係者103名が参加した。

研修では、ドローンによる防除や施肥を導入するにあたり、ドローンを所有する場合に必要なライセンスや法律、委託する場合の費用や実際に委託した農家の体験談について協力事業者から説明があり、果樹試験場の水上主任研究員からドローンによる肥料散布・病虫害防除の研究報告があった。参加者からは、委託した場合の散布プランの打ち合わせや、近隣トラブルへの対応等について質問があった。

その後、屋外でドローンによる肥料と薬剤に見立てた水の実演散布が行われた。参加者は、散布後の園地に入り、散布状況について確認を行った。

この研修で、ドローンの導入の方法や、導入による効果や課題等、今後ドローンを経営にどう取り入れるかを検討する際に参考となる情報を提供できた



水上主任研究員による研究報告



ドローンによる肥料散布後の園地を確認する参加者

V 日高振興局

1. 日高地方農業士会女性部会先進地研修会 in 大阪・関西万博

8月1日、日高地方農業士会女性部会（会長：中村秀美氏）は、先進地研修会として大阪・関西万博を訪れ、会員14名が参加した。

団体予約の「EARTH MART」では、普段何気なく行っている「食べる」という行為について、命の視点から改めて見直し、持続可能な社会について考える機会を持った。また、「EARTH MART」内で漬けられた梅干しの展示と引換券の配布があり、閉幕後は「紀州梅の会」が保管し、2050年にその梅干しと引換えできるといふ企画も行われていた。

参加者からは「農業を別の視点から見る事ができた」、「万博という今年しかできない貴重な研修だった」などの声が聞かれた。



「EARTH MART」前で記念撮影



「EARTH MART」内の梅樽

2. 令和7年度由良町農業士会第2回夏季研修会を開催

8月6日、由良町農業士会（会長：城基泰裕氏）が、草生栽培による雑草防除や夏季の干ばつ対策における技術研鑽のために日高川町及び御坊市内の先進農家ほ場において、第2回夏季研修会を開催し、会員11名が出席した。

日高川町の瀧本氏ほ場では、かんきつ栽培における「クラピア」を用いた草生栽培の状況を見ながら「クラピア」の栽培特性についての説明を受けた。また、瀧本氏自身が整備した自動灌水装置を実際に稼働してもらい、操作法などを確認した。

次に、御坊市の北村氏ほ場を訪問し、うめ園の「ヘアリーベッチ」による草生栽培やかんきつ園の「ナギナタガヤ」による草生栽培について説明を受けた。園主からは「草生栽培における草種選定は、それぞれの特性を見極める必要がある」と話があった。会員からは、「夏場の干ばつ対策は、一つの方法だけでなく、複数の手法を組み合わせる事が得策であることがよく分かった」、「草生栽培の勘所やコツを学べたので、自身のほ場でも実践したい」との感想があった。



「クラピア」による草生栽培の説明



「ヘアリーベッチ」による草生栽培の説明

3. ニューファーマーズ激励会・スポーツ大会・交流会を開催

8月7日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：鈴木 溪氏）主催の「ニューファーマーズ激励会・スポーツ大会・交流会」が開催され、クラブ員19名が新入クラブ員と新規就農者の計3名を迎え入れ、激励した。また、今年度は、スポーツ大会と交流会を有田地方4Hクラブ連絡協議会のクラブ員19名と合同で行った。

まず、会長が開会挨拶の後、4Hクラブの概要説明を行った。続いて、出席者全員が自己紹介をするとともに、今後の農業に対する抱負を述べた。その後、会員相互及び有田地方4Hクラブ員との親睦と交流を目的に、スポーツ大会（ボウリング大会）と交流会が開催された。

新規就農者からは「この会に出席して、先輩方と交流することで4Hクラブに興味を沸かした。今後は、自身も4Hクラブの活動にかかわりたい」との前向きな感想があった。



ニューファーマーズ激励会



ボウリング大会

VI 西牟婁振興局

1. トルコギキョウの低濃度アルコールを用いた土壌還元消毒を実施

J Aわかやま紀南地域本部花き部会では、本年度の活動としてトルコギキョウの土壌病害対策を実施している。管内トルコギキョウ施設では、土壌病原菌による立枯症状が多発しており、従来の土壌消毒薬剤による処理では効果が得られない例もみられる。そこで、白浜町、上富田町のトルコギキョウ栽培施設において、低濃度アルコールを用いた土壌還元消毒を行った。低濃度アルコールを用いた土壌消毒では、エタノールが微生物のエサとなり、微生物が増殖して酸素を消費し、透明フィルムで被覆することで土壌が還元化され、土壌病原菌やセンチュウの密度が低下するとされている。

処理から1か月後の8月15日、園主とメーカーのほか、J A営農指導員2名、普及指導員3名により、土壌の採取と土壌還元化の状況確認を行った。ビニールハウス内中心部は還元状態を示したが、端部は不明瞭であった。白浜町の施設では、処理前の土壌分析でフザリウム菌が高密度で検出されており、園主からは「例年、立枯れ症状が発生し二番花の採花量が少ない。今年はどうかってほしい」との声が聞かれた。土壌分析はメーカーで行われており、数か月後には結果が判明する見込みである。



土壌採取作業（白浜町）

2. 西牟婁4Hクラブ連絡協議会が扇ヶ浜にて梅干し・うめラッシーPRイベントを共催

西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：山崎昂幸氏）は8月2、3、16日に田辺観光協会との共催で、梅干しPR及びうめラッシー（梅シロップを牛乳で割ったもの）無料ふるまいイベントを田辺市扇ヶ浜で開催した。当イベントは梅の魅力を多くの人に知って頂くとともに、世界農業遺産である「みなべ・田辺の梅システム」のPRを目的としており、梅干しとうめラッシーの試食、試飲を行った。

3日間で2117名が扇ヶ浜を訪れ、提供されたうめラッシーはおよそ800杯、梅干しは約20kg（1000個）であった。西牟婁4Hクラブ連絡協議会からは延べ9名が参加し、訪れた方々にうめラッシーを手渡したり、梅に関する質問に答えるなど積極的に活動を行った。来場者からは「うめラッシーはさっぱりしていて飲みやすい、家でも作ってみたい」と好評であった。

昨年度の開催時に来場者から「美味しかったので梅干しや梅シロップを購入したい」との声があり、本年度からは、クラブ員による梅製品の販売も実施した。

その結果、特に県外から訪れた観光客から購入していただくことが多く、効果的なPRに繋がった。



うめラッシーをPRするクラブ員



白干し梅を手にする来場者

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】

～高設栽培におけるクロルピクリン錠剤による土壌消毒説明会を実施～

8月20日、当課主催で農薬メーカー協力のもと、高設栽培におけるクロルピクリン錠剤による土壌消毒の説明会を開催し、生産者、当課、経営支援課合わせて6名が参加した。

生産者の圃場で説明会を行い、メーカー担当者から、培地の水分状態や被覆の方法、薬剤の使用前後での注意事項など土壌消毒について詳しく説明があった。

参加者からは、「培地の水分状態について、勘違いしていた部分もあり、メーカーさんから正しい方法が聞けてよかった。乾燥させた後、土壌消毒を行いたい」との意見があった。



クロルピクリン錠剤の使用手法説明

2. 稲刈り体験を開催

8月25日、近畿大学附属新宮中学校の1年生36人は、M Y N S 営農組合（下阪殖保会長）及びJ Aわかやまみくまの地域本部、農業水産振興課の指導のもと、稲刈りを体験した。この日収穫した稲は、同校生徒が本年の4月24日に、田植えしたものである。

当課演端技師が水稻生育の概要、稲刈りから白米になるまでの作業内容とお茶碗1杯の米の量について生徒に説明した。生徒は、J Aわかやまみくまの地域本部営農指導員から稲刈りでの鎌の使い方などの説明を受けた。

その後、稲を刈り取り、刈り取った稲の束をコンバイン（脱穀機）へ持って行き、その場で脱穀までの作業を体験した。さらに倉庫内で、乾燥から出荷用の袋詰めまで、一連の流れを見学した。

生徒からは「普段食べているお米がここまで苦勞して作られるものなんだと、田植えと稲刈りを通じて実感した」等の感想があった。

この日収穫した米は「近中米」として同校の保護者を中心に販売される予定である。



説明の様子



体験の様子

Ⅷ 農林大学校就農支援センター

1. 令和7年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第2班)開講

8月30日、週末を利用して農業の初歩的な知識や技術を学ぶウイークエンド農業塾農業入門コース(第2班)が開講し、県内外から18名が参加した。開講式では、黒沼所長から「常に問題意識をもって取り組んでください」と挨拶し、その後研修生が自己紹介を行い「美味しい果物や野菜を作りたい」、「農業の基礎を学びたい」など抱負が語られた。

その後、午前中は「和歌山県農業の概要」、「農機具の構造とメンテナンス」の講義、午後は刈払い機や動力噴霧器等農業機械の取り扱い方やメンテナンスの方法を実習した。

今後11月16日まで計10日間の日程で果樹、野菜、花きの栽培方法など基礎知識を学ぶ。



開講式



実習：農業機械の取り扱い方

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489